

ヘメロカリス菌核病（新称）の発生

小野 剛・星 秀男

（生産環境科）

【要 約】東京都府中市のヘメロカリスに発生した株枯れ症状は、*Sclerotinia* sp.が病原であることが明らかとなった。病名を菌核病と提案する。

【目 的】

府中市内の公園で植栽されているヘメロカリス（ムサシノキスゲ（ユリ科）*Hemerocallis middendorffii* var. *musashiensis*）に未知の株枯れ症状が発生した。そこで病原菌を特定し、防除の資料とする。

【方 法】

- 1) 発生状況および病徴を観察し記録した。
- 2) 病原菌を常法に従って分離し、単菌糸分離株を得た。得られた菌株を PSA 培地で培養し、菌叢を培地ごとムサシノキスゲを含む数種植物の葉に無傷で接種し、数日間温室に保ち発病の有無を観察した。
- 3) 病原菌の PDA 培地上での諸性質を調査し、病原の分類学的所属を決定した。

【成果の概要】

- 1) 東京都府中市の植栽（露地）で発生した。初め葉が水浸状に軟化腐敗し、病斑は急速に拡大、植物体を倒伏させる。病斑部は白色綿毛状の菌糸で覆われ、黒色で鼠糞状の菌核を生じる（図1，2）。
- 2) 病斑部からは同一の培養性状を示す糸状菌が高率に分離された。健全なヘメロカリスへの株元への含菌寒天貼り付け接種において、接種2～3日後に接種部位から水浸状病斑を形成、10日後には菌核を生じ、地上部は枯死した。また、ニッコウキスゲ、ヘメロカリス「ステラデオロ」、トマト「桃太郎ファイト」、ナス「千両二号」、キュウリ「Vロード」、ズッキーニ「ダイナー」、キャベツ「YR 錦秋強力 152」およびダイズ（えだまめ）「美瑛」の苗にも病原性を示した（表1）。いずれも接種菌が再分離され、無接種区には発病がみられなかった。
- 3) 病原菌は PDA 上で白色綿毛状のコロニーを形成し、やがて2～7mmで毛状構造のない外皮と黄白色の髄組織を有する黒色の菌核を生じる（図3）。生育温度は5～30℃で、最適生育温度は20℃であった（図4）。以上より本菌は *Sclerotinia* 属菌に属するが、現時点では子のう盤の形成が認められないため種を特定せず、*Sclerotinia* sp.にとどめる。本属菌によるヘメロカリスの病害は記録がないため、病名を菌核病 (*Sclerotinia* rot) と提案する。
- 4) まとめ：府中市で発生したヘメロカリス（ムサシノキスゲ）の株枯れ症状は、*Sclerotinia* sp.による病害であり、病名を菌核病と提案する。本菌は極めて多犯性であるため、周辺植物への発生に注意を要する。病原菌は子のう盤の形成を確認した後、種を決定する。

（関東東山病害虫研究会報投稿予定）



図1 ムサシノキスゲの発病の様子



図2 白色綿毛状の菌糸と菌核 (矢印)



図3 PDA 培地上の様子

表1 ムサシノキスゲ分離菌の
各植物に対する病原性

| 植物名 | 病原性 ^{a)} |
|-------------------|-------------------|
| ムサシノキスゲ | + |
| ニッコウキスゲ | + |
| ヘメロカリス「ステラデオロ」 | + |
| キャベツ「YR 錦秋強力 152」 | + |
| キュウリ「V ロード」 | + |
| ズッキーニ「ダイナー」 | + |
| トマト「桃太郎ファイト」 | + |
| ナス「千両二号」 | + |
| ダイズ「美瑛」 | + |

a) + : 病原性あり

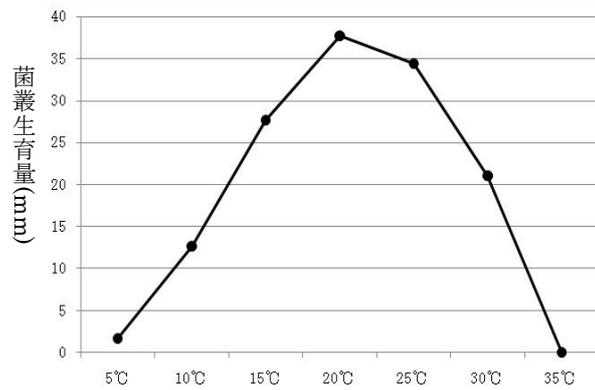


図4 病原菌の温度別生育量